

特別企画(連載総括)

顎口腔システムから「咬合」を理解する

第7回

生物学的・システム論的視点による フルマウスリコンストラクションの実際 ケースプレゼンテーションに学ぶ Bioesthetic Dentistry

荒谷昌利

埼玉県開業 荒谷デンタルクリニック
連絡先：〒344-0061 埼玉県春日部市粕壁1-9-46

Part7. Full Mouth Reconstruction upon the Bioesthetic Dentistry

Masatoshi Araya

第6回
日本国際
歯科大会演者
10月9日(土)
Cホール
午後

連載総括にあたって

Bioesthetic Dentistryにおける審美(esthetics)とは何を意味するのだろうか。今日、Bioesthetic Dentistryが患者に提供するものは、2つの生物学的審美(bioesthetics)の世界、つまり治療後の自然で美しい笑顔と、最適な健康状態が永続する機能美である。それは、いわば色調(shade)が作りあげる審美(cosmetic beauty)ではなく、機能に裏打ちされた形態(shape)がつくる自然におけるあるがままの美(natural beauty)だということである。筆者は、本誌において過去6回にわたり、生物学的・システム論的視点から咬合を捉える“Bioesthetic Dentistry”の理論背景について述べてきた。

最終回となる本稿では、矯正治療後に Bioesthetic Dentistry による全顎補綴治療を施し、顎口腔システムにおける最適な健康状態を確立、これにより諸症候が消失して自然な笑顔が得られ、その健康状態を長期にわたり維持している症例について解説し、本連載のまとめとしたい。

連載予定	第1回	顎口腔システム
	第2回	予備的咬合診査
	第3回	Bioesthetic Dentistryの第一原則：Stable Condylar Position(SCP)
	第4回	下顎の回避パターン(Avoidance Pattern)とコンタクトガイダンス(Contact Guidance：CTG)
	第5回	Bioesthetic Dentistryの第二原則：固有感覚性アンテリアガイダンス(Proprioceptive Anterior Guidance：PAG)の確立
	第6回	Bioesthetic Dentistryの第三原則：遺伝的歯冠形態(Genetic Tooth Form)
	第7回(特別企画・連載総括)	生物学的・システム論的視点によるフルマウスリコンストラクションの実際 ←